

令和7年度 公共事業評価委員会

【再評価】

両河内スマートIC（仮称） 葛沢2号線

令和7年12月18日

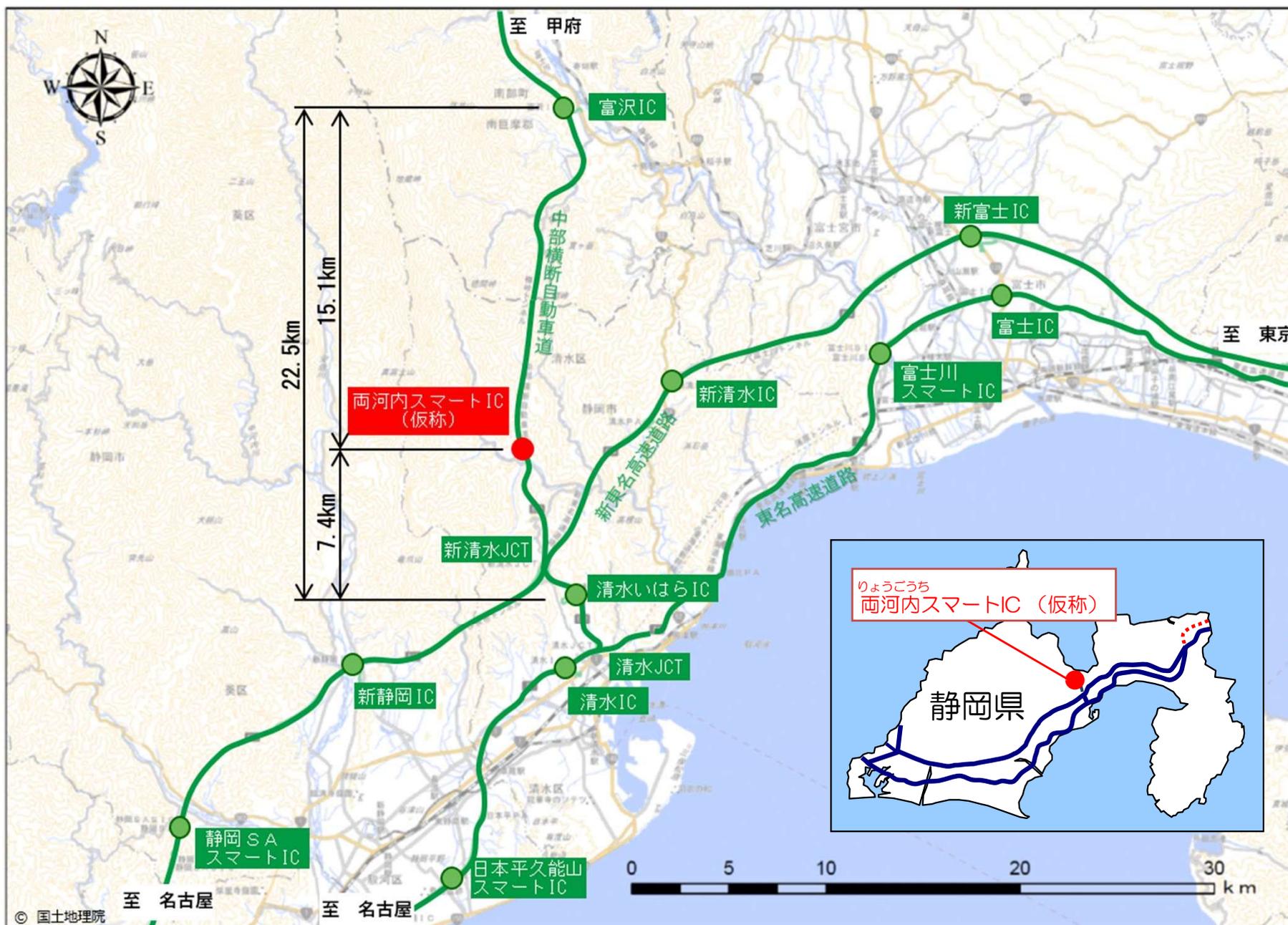
静岡市建設局道路部道路計画課

目次

1. 事業の概要
2. 事業の目的
3. 事業の必要性
 - (1) 事業を巡る社会情勢の変化
 - (2) 事業の投資効果
 - (3) 事業の進捗状況
4. 今後の事業の進捗の見込み
5. 対応方針



1. 事業の概要



1. 事業の概要



スマートICアクセス道路 (葛沢線 + 葛沢2号線) 全長約2.2km



2. 事業の目的

両河内スマートIC(仮称)の設置の必要性

➤ ① 防災機能の強化

- 地形的に北西南側の3方を急峻な山々に囲まれた中山間地域であり、自動車交通への依存が高い地域でありながら、両河内地区と国道52号沿線地区や清水中心部(清水区役所)を結ぶ主要地方道清水富士宮線は、過去にも通行止めが発生し、孤立も発生している。また、災害発生による通行止め時は、大きな迂回を強いられる。
- 両河内地区では、第1次緊急輸送道路(中部横断自動車道)が通過しているが、ICが無いためアクセスできない。

➤ ② 救急医療活動の支援

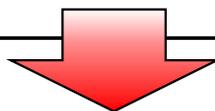
- 両河内地区は、人口の減少、高齢化が急速に進む中山間地域であり、近傍に第3次救急医療施設が無く、医療施設へのアクセス性が悪い。
- 静岡市内の第3次救急医療施設への救急救命活動では、市内の医療施設までのアクセス道路の迂回等により、搬送時間を要している。

➤ ③ 地域利便性の向上

- 両河内地区(葛沢)から清水中心部(清水区役所)へアクセスは、道路線形が厳しい区間を通行し、大きく迂回する必要があり、大幅な所要時間を要する。
- 高速道路のICから両河内地区(葛沢)へは、道路線形が厳しい区間を通り、近隣のICである清水いはらICや新清水ICからのアクセス性が低い。

➤ ④ 観光振興・地域活性化の支援

- 自然豊かな両河内地区では、清流の興津川の釣り、清水森林公園、やませみの湯等が分布し、高い観光ポテンシャルを有しているが、観光客は、近年減少傾向にある。

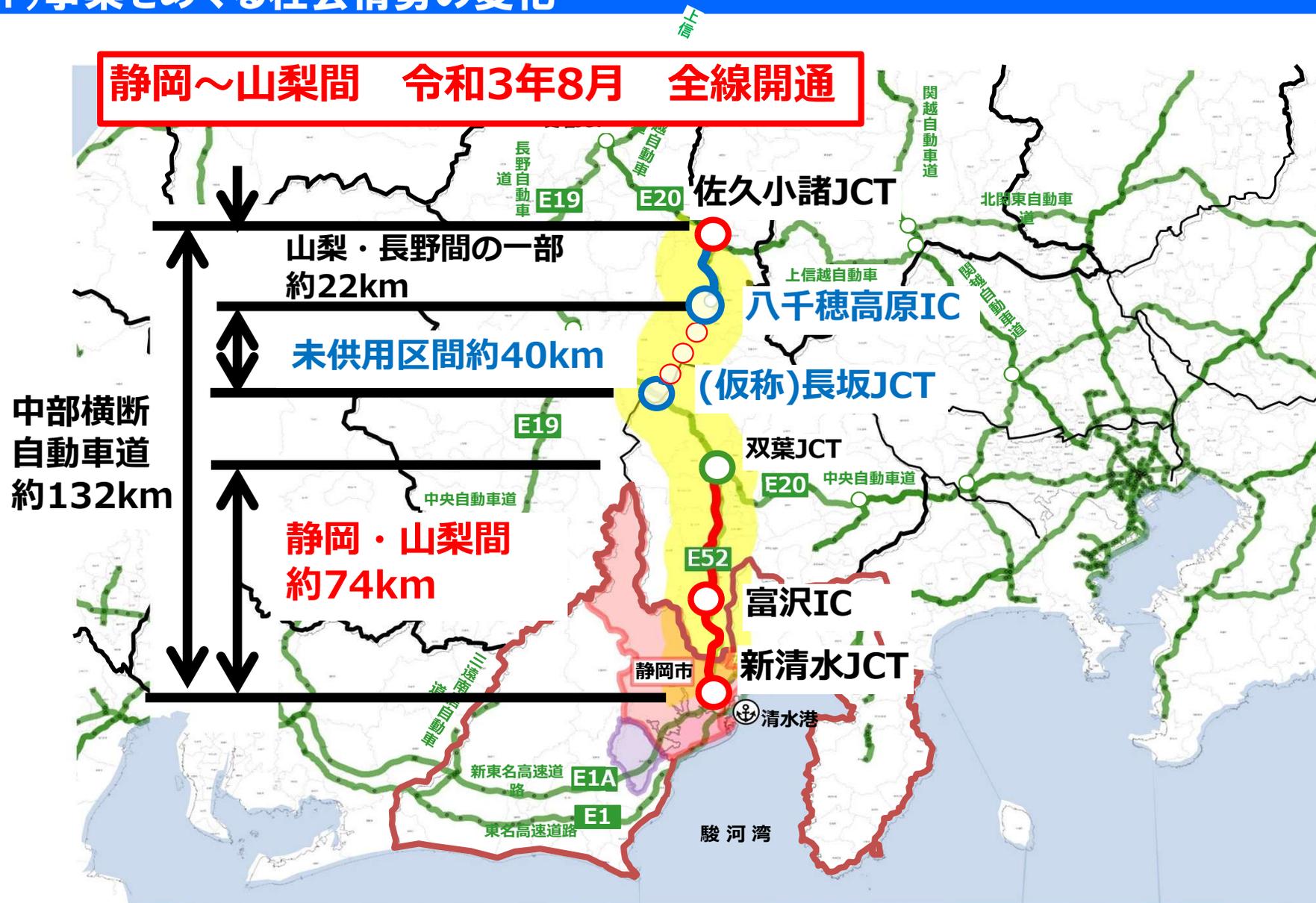


当該地域に、スマートICの設置が求められている。

3.事業の必要性



(1)事業をめぐる社会情勢の変化



3.事業の必要性



Shizuoka City

(2)事業の投資効果【①防災機能の強化】

○両河内地区と清水都心(清水区役所)間の幹線道路で過去12年間で6箇所通行止めが発生し、孤立も発生。
○スマートICの整備により『緊急輸送道への新たなルート確保』により、孤立の解消、迂回ルートの確保により、災害時の『防災機能を強化』。

●中部横断道・新東名等を利用した緊急輸送ルートの確保!



道路被災状況写真



道路被災状況写真
(令和4年9月)

- 両河内地区への主要な道路が土砂災害により通行止めが発生し一時的に孤立状態となった
- 家屋倒壊により要救助者を緊急搬送
- 停電等ライフラインの寸断発生



両河内意見書より
平成27年10月

- 両河内地区への道路は災害に弱く、数年前には3日間ほど孤立したこともある。
- 台風でも壊れない道路が必要だ。

令和4年9月 台風15号 被災状況

第1次緊急輸送道路への新たな高速道路の利用ルートの確保により



『孤立の解消』

第1次緊急輸送道路への新ルートの確保により



『安定した市民生活の確保』

⊗ : 平成20年度～令和元年度災害発生による通行止め箇所

■ : 孤立が懸念される地域

3.事業の必要性



Shizuoka City

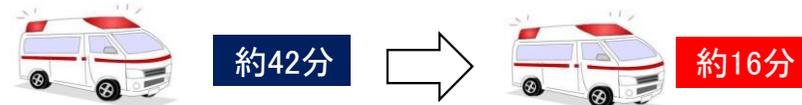
(2)事業の投資効果【②救急医療活動の支援】

- 静岡県立総合病院(第3次救急医療施設)への搬送時間が**大幅に短縮される効果**が得られる。
- 道路幅員の狭隘な区間を回避し、**搬送中の患者への負担を軽減**等の緊急医療活動を支援。

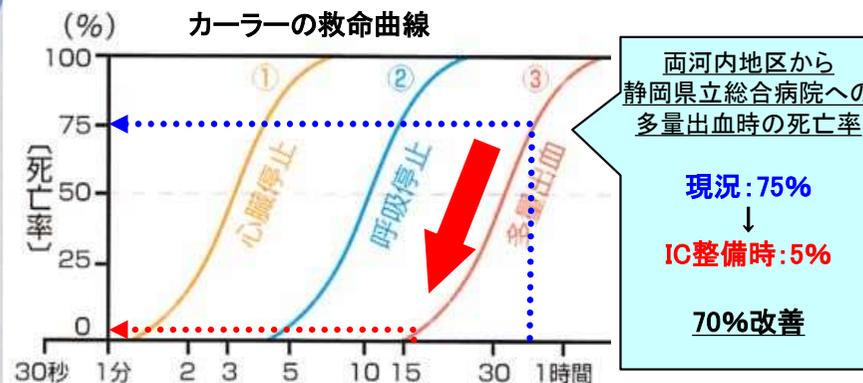


狭隘な区間を回避!

●救急搬送時間が**約26分短縮!**



- ・令和6年 両河内地区から静岡県立総合病院への搬送 29回/年
- ・令和6年 両河内地区から静岡市内第3次救急医療施設 (静岡県立総合病院・静岡済生会総合病院・静岡赤十字病院) への搬送 42回/年



※搬送経路は静岡市消防局ヒアリング結果
 ※データ: R3.4月ETC2.0データ 昼12時間平均旅行速度より算出

●狭隘な区間を回避し、患者への負担軽減!



- 狭隘な道路の通行は患者への負担にもつながる。
- 両河内地区から第3次救急医療施設である静岡県立総合病院の患者搬送では、スマートICから高速利用で病院に搬送することが考えられる。
- 主に、小島出張所より出動しているが、清水消防署、港北消防署からの搬送支援も受けることができる。

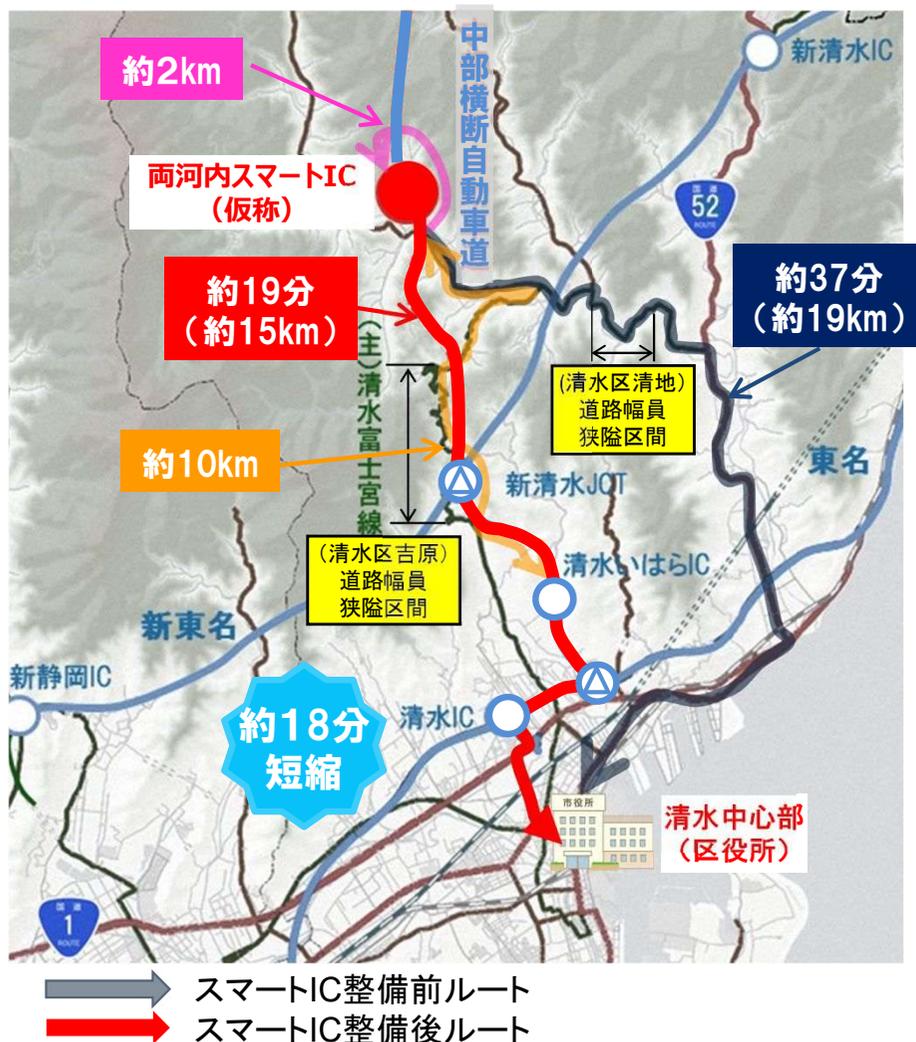
3.事業の必要性



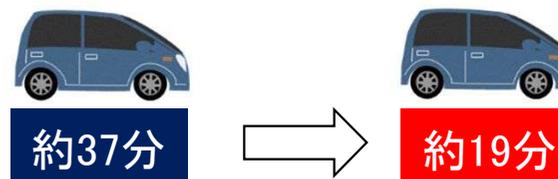
Shizuoka City

(2)事業の投資効果【③地域利便性の向上】

○スマートIC整備により、高速道路の利便性が低い両河内地区(葛沢)から清水中心部(清水区役所)への所要時間が、**大幅に短縮**されるとともに、**安全・安心な通行経路の確保が可能**。



●清水中心部への所要時間が**約18分短縮!**



※データ:R3.4月ETC2.0データ 8時台旅行速度より算出

●高速道路へのアクセス所要距離が**約8km短縮!**



※走行所要距離は、狭小1車線市道の利用を含む (主要幹線道路利用時は、約27km)

(主)清水富士宮線(清水区清地) 道路状況

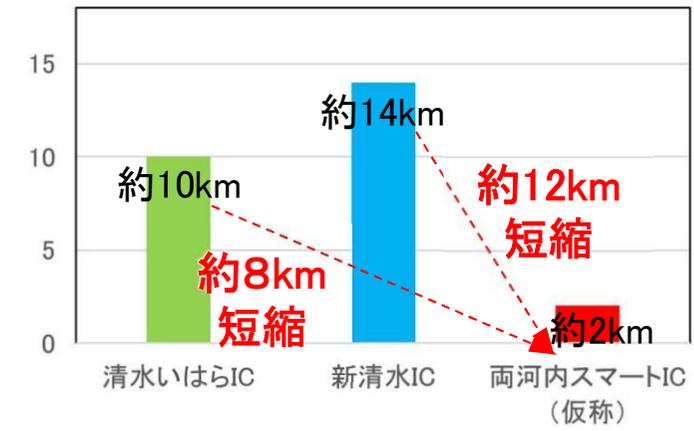
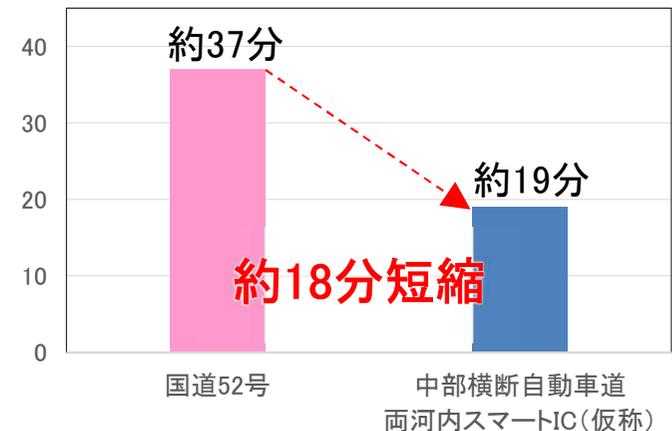




3.事業の必要性

(2)事業の投資効果【④観光振興・地域活性化の支援】

- 興津川の鮎つり、黒川キャンプ場、やませみの湯などの観光地へのアクセス性や観光地までの分かりやすさが向上。
- 山間部特有の地域資源を活用した観光振興を支援。



※資料:黒川キャンプ場、やませみの湯写真:HPより

※走行所要距離は、狭小1車線市道の利用を含む (主要幹線道路利用時の清水いづらICは、約27km)

(3)事業の進捗状況

○ 事業費による進捗率

完成区間事業費	／	全体事業費
92百万円	／	600百万円
進捗率	15.3%	

※令和6年度末

○ 用地契約率

30 件	／	30 件
進捗率	100.0%	

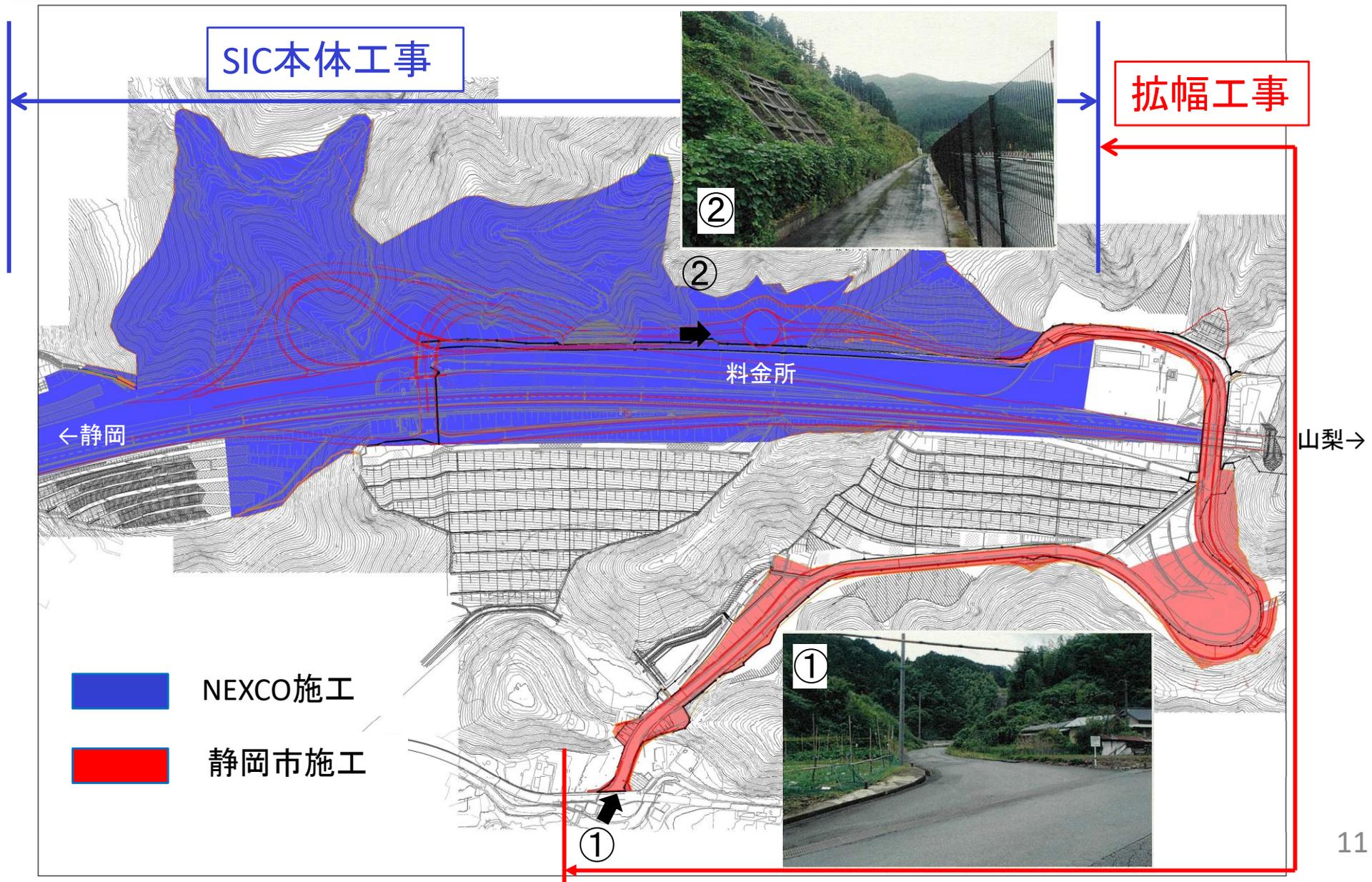
※令和7年9月末時点

○ 次年度以降工事着手予定

4.今後の事業の進捗の見込み



次年度以降工事着手予定



対応方針案

本事業を継続する。

継続の理由

最近頻発している自然災害に対応することの出来る命の道の構築、清水区市街地と中山間地を結び、地域活性化に繋がるネットワークの形成として、市民からの期待も高いため。